

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 富岡市立妙義中学校 】

1 実践テーマ	I・III・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	富岡市立妙義中学校 全校生徒（男子40名 女子27名 計67名） 第1学年（男子11名 女子 9名 計20名） 第2学年（男子19名 女子 9名 計28名） 第3学年（男子10名 女子 9名 計19名） 教職員 19名 講演会（12月 1日）参加保護者 10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（学級活動 総合的な学習の時間 保健体育） ② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育講演会） ③ その他（人権旬間学習 生徒会朝礼）
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高め、スポーツをより多くの人と交流しながら楽しむ心の育成を図る。 ○グローバル化された社会の中で、多様な人権を互いに尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を築いていこうとする意欲と態度の育成を図る。 ○アスリートの生き方や思いを聞き、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図る。
5 取組内容	1 妙義中学校 オリンピック・パラリンピック教育推進委員会の組織編成 ○推進委員の構成 校長、教頭、教務主任、オリンピック・パラリンピック教育推進主任、学年主任、PTA 会長 ○推進委員会での協議内容 ・取り組みの方向性の協議 ・推進計画の作成 ・推進計画の実践、評価、及び報告書の作成 2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る取組【1学期】 ①事業概要の把握と取組内容の検討 ・群馬県教育委員会健康体育課、西部教育事務所、富岡市教育委

員会との連携

- ②オリンピック・パラリンピック教育推進委員会への出席
- ③推進計画の作成（推進委員会の開催）
- ④教職員の共通理解
- ⑤前期人権旬間との関連・「共生社会」の実現に向けて
- ⑥全校朝礼での講話

【2学期】

①10月5日 全校朝礼での講話

全校朝礼において校長より、「東京オリンピック・パラリンピックを振り返って」という内容で講話を実施した。

東京オリ・パラでの数々の名場面を動画によって視聴し、生徒にとってはその時の感動等が想起されている様子であった。

続けて校長より、「みなさんにとって心を動かされた場面は何ですか。」との質問が投げかけられた。

さらに、後日実施される妙中祭（運動会）に向けて、「今度はみなさんが感動場面をつくる番です。」と述べ、生徒のモチベーションの高揚につなげることができた。



②10月7日 妙中祭（運動会）

妙中祭での生徒会長によるオリ・パラ推進の呼びかけ



開会式における生徒会長挨拶の中で、オリ・パラ教育推進校として妙義中学校が取り組んでいる内容紹介等を行うとともに、「東京オリンピック・パラリンピックに負けない妙中祭にしましょう。」という力強い言葉を投げかけ、競

技に向けた全校生徒のモチベーションを高めた。

③10月11日 保健体育の授業での学習

3年生の保健体育において、体育理論「文化としてのスポーツの意義」という単元で授業を実施し、オリンピック・パラリンピックの起源や意義について学習した。その中で、朝礼での「みなさんにとって心を動かされた場面は何ですか。」という校長からの質問に対して、「オリンピック・パラリンピックで心を動かされた場面」という題名でレポート作成を行った。生徒一人一人がオリンピック・パラリンピックの教育的な意義と倫理的価値、国際親善や世界平和に果たす役割について思考し、レポートにまとめることを通して理解を深めることができた。

【生徒作品一部抜粋】

オリンピック・パラリンピックで
心を動かされた場面

3年 ○○ ○○



場面説明（種目、予選や決勝など）

男子十種競技のレース終了後（決勝）

選んだ理由

国籍・人種関係なくそれぞれの選手が健闘を称え合い、その後完走した21人全員で記念撮影をしていて感動したから。

スポーツなどで、競い合うことがあっても、終わったときには、この選手たちのように健闘を称え会えるようにしていきたいと思った。

オリンピック・パラリンピックで
心を動かされた場面

3年 ○○ ○○



場面説明（種目、予選や決勝など）

スケートボード女子パーク決勝で4位になり、他国の選手たちに担ぎ上げられる岡本みずく選手の様子。

選んだ理由

選手は、敵同士であるにも関わらず、仲間同士のように関わっている様子から、スポーツは、競い合うだけでなく、楽しむものということを知れたから。

感想・今後に生かしたいこと

オリンピックは、競技の楽しさを教えてくれるだけでなく、人と人との関係のあり方を教えてくれるものということを知った。今日のことを頭に入れて、今後学校生活を送ってまいります。

④11月19日 体力向上推進事業 複数武道実践：空手道授業
県教委健康体育課による空手道授業を実施した。我が国固有の文化と伝統に触れながら、オリンピック・パラリンピック種目の体験を通して理解を深めていくことを主旨として実施した。

当日は講師の先生を招き、武道における礼法から突き・受けのやり方について教えていただき、最後は空手の形の基本型Ⅰを全員で覚え、実践することができた。この活動を通して空手道の興味・関心を向上させ、武道の理解を深めることができた。



⑤オリンピック・パラリンピック教育講演会


12月1日 14：00～15：00 於 妙義中学校体育館

参加者 生徒67名 教職員11名 保護者10名

講師 佐藤 美紀 様

（バルセロナオリンピック女子10000m日本代表）

1992年バルセロナオリンピック日本代表の佐藤美紀さん（旧姓五十嵐）を講師とした講演会を実施した。

	<p>新島学園高校時代から努力してきたことやオリンピック出場につながるきっかけについて、また、オリンピックの体験談や裏舞台について話していただいた。</p> <p>そして、自身の座右の銘である「継続は力なり」について、「今できることを全力で。」「何よりも楽しむ。」「自分を信じてあきらめずに続けていくことが大切。」という言葉を生徒に伝えてくださった。</p> <p>さらに、聖火ランナーで使用したトーチを生徒に持たせていただくという体験をさせていただいた。</p> <p>生徒にとって今後の人生を前向きに生きる原動力を得ることができ、大変有意義な講演会となった。</p> 
6 主な成果	<p>○3か年に渡るオリンピック・パラリンピック教育によって、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会への興味・関心を高めるとともに、スポーツの価値の理解を深め、共生・多様性の視点を培うことができた。</p> <p>○教育講演会を通して、アスリートの生き方について関心を高めるとともに、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度を育成することができた。</p> <p>○保護者や地域に「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」の取組の紹介や講演会への参加を呼びかけることを通して、「チーム妙義中」で本事業への支援を行う意識を高めることができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○人権旬間学習と関連づけることで、共生・多様性の面を重点的に扱うことができた。</p> <p>○妙中祭での生徒会長の挨拶や学校 HP 掲載を通して、人権旬間と関連づけて、広く保護者や地域の方にも本事業の取組を伝えることができた。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育講演会に、近隣である安中市在住の佐藤さんを講師としてお招きした。中学・高等学校時代のエピソードは、生徒にとって身近な存在としてとらえられ、興味・関心を高めることにつながる取組となった。</p>
8主な課題等	<p>○東京オリンピック・パラリンピックで学んできたことを自身がどのように日々の生活に関わっていくのか、共生・多様性の視点から課題意識をもたせ、自分に何ができるのかを考えさせていくことが課題である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○オリンピック・パラリンピックに関わる講演や実践を通して、興味関心をより高めていく。そして、その経験を通して、共生・多様性の視点から自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図っていく。</p>